

「日本への留学を通して、自分を知る」

人間福祉学部 陳 金城(チンキンジョウ)

初めて日本に来た時は20歳でした。一年間留学生別科で学び、四年大学へ進学をしましたが、瞬く間に5年間の中部学院大学での留學生活が終わりました。

今、一番の思い出深いことは、大学四年生の後期に介護福祉士国家試験に向け、クラスお仲間や先生と一緒に一生懸命に勉強に取り組んだことです。「努力は人を裏切らない」という言葉のとおり、私は介護福祉士国家試験に合格できました。四年間先生方が一生懸命に教えてくださり、国家試験当日も先生が試験会場まで応援しに来てくれました。私は涙が出てきそうなくらい感動しました。

私が中国の学校にいる時、先生は上、生徒は下で、常に距離を保っていました。

先生との交流は学習のことに限るのが普通でした。しかし、日本の大学に入ってビックリしたことは、日本の先生は学習のことだけではなく、生徒の生活や興味などに興味を持ってくれて、学生の意見や気持ちを尊重し、同じ人間として平等に対応してくれました。先生と生徒の関係にとっても暖かさを感じました。これは中国の学校生活では体験したことがありません。日本での生活は、学校の先生やアルバイトの同僚、近所の日本人の方々にも大変お世話になっており、日本での5年間の生活で、中国にいた頃には感じたことがない、人間らしい優しさ、思いやりなどのあたたかい心を実感しました。

卒業の時期を迎え、「もっと勉強すればよかった」「興味を持っていた科目を履修できなくて残念だった」など、いろいろな思いがあります。大学一年生と二年生の時、私は何をしたいのかが自分でわかりませんでした。アルバイトと学校の授業との両立で自分は精一杯だと思っていたから、他のことに関心を持つゆとりもありませんでした。

しかし、大学で行われた「ビブリオバトル(知的書評合戦)」へ参加をしようと挑戦したのをきっかけに、学校の活動や地域活動にも積極的に参加するようになりました。そして、「岐阜県内外国人留学生弁論大会」にも出場しました。最初は「自分にできるだろうか」と不安でしたが堂々とスピーチをすることができました。こうしたチャレンジをしたこと、経験をしたことで、自分の価値を見いだすことができ、私は自信を身につけることができました。

「自信を持ってやろう!」と言葉だけで励んでも自信はつかないと思う。自信をつけるためには、自分が行動することが一番大事だと思います。問題に直面した時には、たとえ小さな問題でも一つ一つ解決するために試行錯誤することが大切です。学校や地域などのさまざまな活動に参加し、自分の成長するチャンスを逃さずチャレンジしてほしい。これが、先輩として後輩の皆さんに贈る私からのメッセージです。